

令和5年度 岡崎市シビックセンター事業報告書

公の施設名称	岡崎市シビックセンター
施設の所在地	岡崎市羽根町字貴登野 15 番地
指定管理者	名 称：SPS・トエネック・ヒール・アンド・ヒール共同事業体 所在地：東京都江東区豊洲 3-2-4 豊洲フォレシア 16F 代表者：サントリーパブリシティサービス株式会社 代表取締役 千 大輔
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

音楽を中心とする芸術文化の振興に関すること

■鑑賞機会の提供

No.	事業名	実施日	入場料金	入場者数	演奏曲目等
1	エキサイティングステージ 細川千尋ピアノ・トリオ JAZZ LIVE	4月29日(土)	一般 3,500 学生 2,000	296	ジョナサン・ラーソン：シーズンズ・オブ・ラヴ スティーヴン・ソンド・ハイム：悲しみのクラウン ジャスティン・ハーウィッツ：アナザー・デイ・オブ・サン アンドリュー・ロイド＝ウェバー：メモリー ほか
2	プレミアムコンサートシリーズ 東儀秀樹 with 川井郁子	5月13日(土)	一般 4,000 学生 2,000	372	ホルスト：ジュピター マルグリット・モノー：愛の賛歌 リチャード・ロジャース、ロレンツ・ハート：My Funny Valentine ほか
3	クローズアップおかげさ アンサンブル天下統一2023	6月3日(土)	一般 3,500 学生 2,000	335	ベートーヴェン：弦楽三重奏曲 長調 Op.9-1 ベートーヴェン：七重奏曲 変ホ長調 Op.20 アドルフ・ブラン：七重奏曲 Op.40より第3楽章
4	ようこそコロネットシリーズ 三浦文彰が魅せる室内楽の世界 ～中井美穂をナビゲーターに迎えて～	9月9日(土)	一般 4,000 学生 2,000	378	クライスラー：愛の喜び ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲のアレグレット 変ロ長調 WoO39 服部隆之：真田丸メイン・テーマ ほか
5	プレミアムコンサートシリーズ 錦織健 テノール・リサイタル	10月7日(土)	一般 4,000 学生 2,000	407	カッチーニ：アヴェ・マリア、シューベルト：アヴェ・マリア 服部良一：蘇州夜曲、土井晩翠作詞・滝廉太郎作曲：荒城の月 フレディ・マーキュリー：ボヘミアン・ラブソング、伝説のチャンピオン ほか
6	プレミアムコンサートシリーズ 児玉麻里&児玉桃 ピアノ・デュオ・コンサート	11月5日(日)	一般 4,000 学生 2,000	206	チャイコフスキー（ラフマニノフ編）：「眠りの森の美女」組曲 op.66より序 奏/リラの精～ワルツ チャイコフスキー（ランゲリ編）：「白鳥の湖」op.20より情景～パ・ド・ドゥ ドビュッシー：白と黒で ほか
7	コロネットキャラバン隊 石上真由子 ヴァイオリン・アウトリーチ	11月14日(火)	無料	125	シューマン：トロイメライ クライスラー：美しきロスマリン ベートーヴェン：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第5番 第2楽 章 ほか
8	コロネット ランチタイムコンサート 石上真由子 ヴァイオリン・リサイタル	11月15日(水)	一律 1,500	161	クララ・シューマン：3つのロマンス マスネ：タイスの瞑想曲 ジョージ・アンタイル：ヴァイオリン・ソナタ 第1番（1923） ほか
9	クローズアップおかげさ アンサンブル天下統一 ゴルトベルク変奏曲	12月10日(日)	一般 3,500 学生 2,000	305	モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプス K. 618 J.S.バッハ：ゴルトベルク変奏曲 長調 BWV988
10	エキサイティングステージ Quartonal クリスマス・コンサート	12月16日(土)	一般 3,000 学生 1,500	244	セシル・アームストロング・ギブズ：そは恋人と乙女 グノー：アヴェ・ヴェルム ジェームズ・ロード・ピアポント：ジングル・ベル ほか
11	コロネットキャラバン隊 熊澤杏実 オーボエリサイタル	12月19日(火)	無料	250	大島ミチル：風笛～あすかのテーマ～ チャイコフスキー：白鳥の湖より情景 ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界」より第2楽章 ほか

12	こどものためのシリーズ 音楽の絵本エレガンス	1月8日(月)	おとな2,500 こども1,000	404	ロッシーニ:ウィリアム・テル序曲 久石譲: 天空の城ラピュタメドレー モンティ:チャルダッシュ ほか
13	ようこそコロネットシリーズ 北村朋幹 ピアノ・リサイタル	2月25日(日)	一般 3,500 学生 2,000	325	リスト: 巡礼の年 第1年「スイス」S.160、第2年「イタリア」S.161
14	こどものためのシリーズ Kids meet Jazz! スペシャルコンサート	3月23日(土)	おとな1,800 こども1,000	558	シャーマン兄弟: 小さな世界 D.エリントン: スイングしなけりや意味ないね L.ハーライン: ジップ・ディ・ドゥーダー アメリカ民謡: 聖者の行進 ほか
15	コロネット ランチタイムコンサート 音の春風〜心に届く未来へのエール〜	3月30日(土)	一律 500	282	ジャスティン・ハーウィッツ: アナザー・デイ・オブ・サン リチャード・ロジャース: サウンド・オブ・ミュージック アラン・メンケン: アンダー・ザ・シー 吉丸一昌作詞、中田章作曲: 早春譜 ほか

■参加創造型事業

No.	事業名		実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	アンサンブル天下統一 アンサンブル・アカデミー	マスタークラス	8月8日(月)～12 日(土)	¥40,000	25	レジデント・アンサンブルであるプロのアーティスト「アンサンブル天下統一」から技術の指導を受け、一緒に演奏をするアンサンブルに特化したマスタークラスを実施した。
		岡崎市在住・在学・在勤者限定 ワークショップ	8月11日(金)	¥3,000	1	市内在住・在学・在勤者に限定し、アンサンブルの楽しさを体感するワークショップを実施。市内高校生1名がヴァイオリンで参加した。アンサンブル天下統一の3人と弦楽四重奏をホールのステージで演奏し、アンサンブルの醍醐味を体感いただいた。
		アンサンブル・アカデミー コンサート	8月13日(日)	一般1,000 学生500	115	5日間のマスタークラスを受講した受講生による成果発表のコンサートを実施した。
2	体験！発見！こども力応援プロジェクト ジュニア・アートプロデューサー		11～3月	無料	4	市内在住・在学の小学5～中学2年生の子どもたちが、計8回の活動を通して公共施設の役割や税に関する学びを得るとともに、コンサート制作に関する様々な経験を積み、互いに協力し合ってコンサートを創り上げた。コンサートには子どもからご年配の方まで幅広い年代の観客が来場した。
3	体験！発見！こども力応援プロジェクト キッズお仕事体験 子どもレセプション		12月16日(土)	無料	3	小学生を対象にシビックセンターの主催公演でのチケットもぎり、プログラム配布、お客様案内など、ホールサービスの仕事を体験していただいた。後半はコンサートを鑑賞し、参加者が音楽に親しむ機会も提供した。
4	体験！発見！こども力応援プロジェクト ちびっこ探検隊		①5月2日(火) ②12月6日(水) ③12月13日(水) ④1月30日(火)	無料	①城南小 71人 ②岡崎特別支援 学校 19人 ③福岡小 105人 ④小豆坂小 96人	小学生や支援学校の生徒を対象に館内の諸室やホールのほか、ホールの舞台袖やピアノ庫などの普段は立ち入ることが出来ない施設の裏側を見学いただいた。施設をより身近に感じていただけるように、公共施設の役割についてスタッフが話したり、ホールのコンサートグランドピアノの響きを体感いただくことで、ホールに対する理解を深めた。

■地元音楽家支援・育成事業

No.	事業名	実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	次世代育成プロジェクト 未来の音楽家シリーズ 村松夕芽 & 今村碧 トランペットデュオ・リサイタル	3月15日(金)	¥1,000	132	若手演奏家を広く市民に紹介するシリーズとして、岡崎出身のトランペット奏者の村松夕芽と今村碧を起用。演奏家には経験を積み世界へ羽ばたくことを期待し、観客には管楽器特有の華やかな音色を提供した。
2	シビックロビーコンサート ①管楽器で奏でるちいさな音楽会 ②秋のメロディー	①6月9日(金) ②11月10日(金)	無料	①70 ②100	シビックセンターの1階ロビーを会場に、地元演奏家が出演するコンサート実施した。来場者には気軽に音楽を楽しむ場を提供し、出演者には活動の機会を提供した。

■コロネット市民音楽フェスティバル

No.	事業名	実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	コロネット市民音楽フェスティバル2023	9月15日(金) ～9月21日(木)	各回¥1,000上限	参加団体 3 入場者 594	岡崎市を中心に活動する3つの音楽団体に、それぞれコンサートホールでの発表の機会の提供と、各団体の希望や公演内容に沿った制作支援を行なった。木管三重奏とピアノのアンサンブル、リコーダーとピアノのデュオ、吹奏楽の各団体が工夫を凝らした演奏会を開催した。

■地域ネットワーク事業

No.	事業名	実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	まちなかコンサート シビック エキナカ♪コンサート	11月11日(土)	無料	120	出演者にアンサンブル・アカデミーの出身者を起用し、ヴァイオリン、ヴィオラ、ピアノのアンサンブルで、幅広い市民が楽しめるプログラムをお届けした。併せて岡崎駅に設置された「ストリートピアノ」の活用を図った。
2	地域ネットワーク事業 トランペット・デュオとピアノでくるスプリングコンサート	3月16日(土)	無料	①40 ②44	地域ネットワーク事業の一環で、岡崎市内の施設と連携してコンサートを開催。地域交流センターで「ゆきサロン」を展開している六ツ美分館「悠紀の里」では、施設の利用者・来場者を対象にしたコンサートを開催した。同日に福祉施設の「ボッジョ・デル・アルジェント」も訪問し、施設利用者に耳馴染みのある曲で構成したミニコンサートを実施した。

■防災関連事業

No.	事業名	実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	コロネット 防災コンサート	10月27日(金)	無料	95	災害が起きた時にどのようにして自分の命を守るかを学ぶ講座付きのコンサートを実施した。岡崎市防災課の協力のもと防災・減災講座を行ない、市民に日頃の備えの重要性を説いた。講座の後はトロンボーン・ミニコンサートを催し、ホールの響きをお楽しみいただいた。

交流広場等を利用した地域のまちづくり支援に関する業務

■交流広場事業・花植え業務・イルミネーションの実施

No.	事業名	実施日	参加料金 入場料金	参加者数 入場者数	事業内容
1	シビックセンター 夏祭り	7月22日(土) 7月23日(日)	無料	15,000	主催である地区の総代会及び地元有志による実行委員会と連携しながら、岡崎市南部地区最大級の夏祭りを開催した。シビックセンターは事務局として、企画面のサポートと祭りに関わる人や団体との調整役を担い、地域の賑わいづくりに貢献した。
2	秋の広場事業 シビックトリズム音楽広場 ～1111フェス!～	11月11日(土)	無料 (一部イベント 有料)	1500	様々な音楽に触れて、楽しんでいただくことを目的に、リズム音楽をテーマにした鑑賞・体験イベントとして実施。ステージイベントと工作ワークショップを関連付けて行うことで、多くの親子連れの来場を促すことができた。また、街歩きイベントや出合いの杜公園でのイベントと同日開催することで、地元の商店会と一緒に地域全体を盛り上げることができた。
3	冬の広場事業 シビッククリスマス2023	12月16日(土)	無料 (一部イベント 有料)	1,053	館内と交流広場を使ってクリスマスをテーマにしたイベントを開催した。広場にはキッチンカーが出店し、館内ではクリスマスに因んだ工作コーナーやロビーでのマリンバのコンサート、人形劇の上演等を実施した。ホールでQuartonalのクリスマス・コンサートを開催したこと、施設全体がクリスマスの雰囲気にも包まれ、大人も子どもも楽しめる1日とすることができた。
4	KIDS EXPO～キッズ万博	3月24日(日)	無料	1,556	子どもたちが大人と一緒に「音楽」「芸術」「スポーツ」「科学」と出会う体験型イベントを開催した。様々な体験コーナーを通じて、子どもたちの想像力を育み、数多くの親子の交流の機会を創出した。また、鑑賞事業の「Kids meet Jazz!」と同時開催することで、施設の全フロアが数多くの親子連れで賑わった。

5	イルミネーション	12月8日(金)～ 1月16日(火)	無料		音楽をモチーフにしたイルミネーションを実施した。
6	花植え	4月23日(日) 9月30日(土) 12月3日(日)	無料		新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、4月の花植えは職員のみで行なった。地域の方と相談の上、秋(9月)から、羽根北地区の方との花植えを再開した。冬の花植えでは子どもたちの参加も見られ、花植えの後にミニゲームで交流するなど、地域コミュニティの活性化に寄与することができた。

■ディスプレイの実施

No.	展示テーマ	日程	事業内容
1	和紙ちぎり絵アート 「家康と四季」	9月28日～12月末	地元の光ヶ丘女子高等学校和紙工芸部に、徳川家康公と岡崎市をテーマにした作品の制作を依頼。完成した縦1.5m×横4.4mの巨大ちぎり絵作品「家康と四季」をシビックセンター1階東玄関の柱に巻き付けて掲出し、施設の賑わい創出を行った。
2	廃材で作ったモビール (エコアート作品)	3月1日～3月31日	SDGsの観点から、普段は廃棄してしまうトイレットペーパーの芯を材料に使ったモビールを制作。1階ロビーに展示して、来館者に施設を身近に感じていただけるような空間づくりを創出した。

(2) 事業実施に対する自己評価

指定管理第3期の事業計画書に基づき、市民の芸術文化振興と地域の賑わい創出を図るため、音楽事業を実施した。第3期の最終年となった令和5年度の鑑賞型事業は、小さい子どもたちから大人まで、岡崎市民を中心とした幅広い年代の方が多彩な音楽を楽しみ、感動体験を共有できるような鑑賞機会を提供した。また、アンサンブル天下統一の活動とホールの存在を広く市の内外に広報することにも注力し、多くの方に音楽やホールとの接点を持たせることができた。

参加創造型事業では、第3期からスタートさせた「アンサンブル天下統一」によるアンサンブル・アカデミーの他、市内小・中学生がコンサートの企画・制作にチャレンジするジュニア・アートプロデューサーなど、次世代を担う子どもたちや青少年に、音楽の楽しさを身近に感じてもらうことを強く意識した事業を進化させながら継続展開した。

また、ロビーディスプレイは、昨年同様の「家康公と岡崎」をテーマにした作品制作を市内の高校の和紙工芸部へ依頼した。完成した巨大なちぎり絵作品は1階東玄関の柱に巻き付けて展示した。大河ドラマ「どうする家康」を盛り上げるべく企画した、高校生の手がけた大型の作品が東玄関周辺を明るく彩り、来館する多くの方の目を楽しませた。1年を通して、幅広い世代の市民が文化芸術に親しむ機会を、多彩な方法で展開した。

音楽を中心とする芸術文化の振興に関する事業 鑑賞機会の提供

結成10周年をむかえたレジデント・アンサンブル「アンサンブル天下統一」は、6月の定期公演と、年末の風物詩として根付かせていくことを念頭に置いた12月の「ゴルトベルク変奏曲」の2公演を実施。定期公演ではメンバー3人によるベートーヴェンの弦楽三重奏曲に加え、在京オーケストラの首席を経験している4人のトッププレイヤーと共にベートーヴェンの七重奏も躍動感あふれる演奏で観客を魅了した。「ゴルトベルク変奏曲」では、バッハの大作をアンサンブル天下統一の3人の磨き抜かれたアンサンブルが奏で、年末にふさわしい厳かな演奏会となった。モーツァルト作曲「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を市内のアマチュア合唱団と共演するステージでは、市民参加の機会を創出した。

4月に開催した「細川千尋ピアノ・トリオ JAZZ LIVE」では、ピアニストの細川千尋が有名ミュージカルナンバーをジャズアレンジした曲の数々をベースとドラムのトリオで演奏した。聴き馴染みのある曲がジャズの小気味良いリズムに乗って演奏された。プログラムをミュージカルの曲にしたことで、ジャズファンだけでなくクラシックや演劇ファンにもジャズを聴いていただく機会をつくることができた。

5月に開催した「東儀秀樹 with 川井郁子」では、雅楽界のパイオニア東儀秀樹と作曲家としても活躍するヴァイオリニストの川井郁子を招聘し、邦楽とクラシック音楽の魅惑的なコラボレーションを実現させた。箏と笙、ヴァイオリン、ピアノの共演により、聴きなじみのある楽曲からオリジナル曲までエンターテインメント性の高い演奏で来場者を魅了した。

9月の「三浦文彰が魅せる室内楽の世界」は、大河ドラマ「真田丸」のテーマ曲の演奏でも知られる人気ヴァイオリニストのプロデュースにより、出演者が自ら曲目解説や聴きどころを話し、信頼を寄せる実力派ソリストたちとブラームスのピアノ三重奏を演奏するという構成で行った。室内楽に初めて触れる方にも親しみやすい内容で好評を得た。

10月には国内屈指の人気を誇る錦織健のテノールリサイタルを実施。この公演から感染症を考慮し販売を控えていた最前列を販売し、チケットは完売、満席での公演となった。オペラアリアや日本歌曲に加え、ポップスや洋楽のロックを含む多彩なプログラムを円熟した歌唱力で歌い上げ、来場者を大いに楽しませた。

11月は医師免許を持ちながらヴァイオリニストとして第一線で活躍する石上真由子のランチタイムコンサートとアウトリーチを実施。「ランチタイムコンサート」では、卓越した技術とダイナミックな演奏で来場者を魅了。アンタイルのヴァイオリンソナタの超絶技巧が観客をうならせた。

福岡小学校へのアウトリーチでは、クラシックの名曲を、解説や楽器紹介を交えながら演奏した。生演奏を近距離で聴く機会の少ない子どもたちは、真剣な眼差しで演奏に聴き入っていた。質疑応答では、日頃の練習のことやヴァイオリニストという職業についての質問があがり、演奏者自身の小学生時代の話や体験談を交えて、継続することの大切さや将来の夢について答えた。子どもたちに音楽を届けるだけでなく、将来について考える時間を提供することができた。

12月は「Quartonal クリスマス・コンサート」と岡崎市出身のオーボエ奏者、熊谷杏実のアウトリーチを実施した。「Quartonal クリスマス・コンサート」では、男声4人の卓越したア・カペラにより、賛美歌や世界の民謡、クリスマスソングなど、幅広いレ

パートリーで名曲の数々を演奏。温かく美しい絶妙なハーモニーが会場を包んだ。

熊谷杏実のアウトリーチは、市立翔南中学校の2年生を対象に音楽の授業の一環として実施した。学校側と意見交換をしながら、音楽の授業で生徒が習ったことがある曲やオーボエの音色や魅力が生徒にわかりやすく伝わるような曲を選曲した。また、プログラムの中に、演奏者自身の中学生時代の話や自分の将来の職業や進路を決めたきっかけなどの実体験の話をする時間を設けた。生徒からは「自分が好きな事は反対されても、あきらめずに継続することが大切だと感じた」「数年後の将来を後悔しないために、今やりたい事をとことんやるようにしたい」等感想が数多くあがった。生徒たちが自身の将来や進路について深く考える機会となった。

1月は毎年恒例となっているファミリー向けの人気公演「音楽の絵本」を開催。プロの演奏家たちが動物に扮して演奏し、音楽の楽しさを子どもから大人まで会場全体で分かち合う公演となった。

2月は「北村朋幹 ピアノ・リサイタル」を実施。独自の音楽探求が注目されている愛知出身のピアニスト北村朋幹による公演で、リスト作曲の巡礼の年をスイス、イタリアと通して演奏した。当日のパンフレットには奏者自身の楽曲解説を掲載し、詩情あふれるピアノの音色と共に奏者の言葉や感性を来場者に届けることができた。

3月は「Kids meet Jazz!」「ランチタイムコンサート音の春風〜心に届く未来へのエール〜」を実施した。「Kids meet Jazz!」は、子どもたちにも耳馴染みのある曲をジャズにアレンジした曲の演奏と観客が歌やダンスで参加できるコーナーを盛り込んだステージを実施した。来場した親子に、多彩に音楽を楽しむ時間を提供した。

「ランチタイムコンサート」は、ジュニア・アートプロデューサーたちがテーマを考え、企画したコンサートを実施した。幅広い年代のお客様が来場され、市民に気軽に音楽を楽しめる機会を提供するとともに、「ジュニア・アートプロデューサー」事業を広く市民に広報する機会にもなった。

参加創造型事業

4回目となる「アンサンブル天下統一 アンサンブル・アカデミー」は、8月8日～13日の6日間で開催。アンサンブル天下統一の3名によるアンサンブルに特化したマスタークラスには今年も全国から多数の応募があり、書類・音源審査を行い、4つのグループと12人の個人受講の合計25人の若手演奏家が受講した。受講者と講師がアンサンブルを組み、全12グループがアンサンブルに特化したレッスンを受けた。アンサンブルの音楽の作り方や音楽性を講師から学ぶだけでなく、3人が最も大切にしている音楽を通じたコミュニケーションやアンサンブルの楽しさを、講師と受講生、受講生同士で共有する場となった。最終日には受講の成果を発表するコンサートを実施し、来場者に好評をいただいた。また、期間中に実施した市内在住・在勤者向けワークショップには、地元高校生1名（ヴァイオリン）が受講。アンサンブル天下統一の3人と弦楽四重奏を演奏し、アンサンブルの醍醐味を体感する機会を提供した。

「ジュニア・アートプロデューサー」は11月から3月にかけて全8回活動した。市内在住・在学の小学5年生～中学2年生を対象とし、公募により4人が参加。活動を通

してコンサートのプロデューサーの仕事を体験し、様々な経験を積みながら協力してひとつのコンサートを創りあげた。今年は昨年と異なり有料コンサートとして企画したため、公共施設の役割やお金(税金)の流れを学ぶワークを新たに活動の中に組み入れた。また昨年同様、活動サポーターと出演者には事前に「興味・関心の幅を広げ創造的な活動ができるようになる」という事業の趣旨を説明し賛同いただけたことで、参加者の自発性を引き出す活動を展開することができた。参加者からは「より音楽への愛情が深まり、自分の成長も感じた」「今までと違う視点でコンサートを見られるようになった」といった感想が得られ、また参加者の保護者からは「この取り組みを通じて成長し、得た成果をコンサートで発揮できたことで、本人の自信につながったと思う」といったコメントをいただいた。コンサートの来場者からも「企画を続けていってほしい」「子どもを参加させたい」といった声をいただくなど、次世代を担う子どもたちの育成事業としてシビックセンターならではの価値を創出できたと考える。

「子どもレセプション」は、鑑賞事業と同時開催した。小学生3名がチケットもぎりやプログラム配布、お客様案内などホールサービスの仕事を体験したほか、コンサートの後半はホール内で生演奏を鑑賞しお客様としての経験も積むことで、様々な形で音楽やホールに関りを持てるようにした。参加した児童からも、達成感に満ちた感想があがり、ホールの仕事やコンサートへ関心をもつていただくきっかけとなった。

「ちびっこ探検隊」は、市内の小学校3校と岡崎特別支援学校より依頼をうけ、児童、生徒を対象に授業の一環で実施した。ホール見学を中心に、公共施設の役割などの話を交えながら搬入用エレベーター、舞台袖、ピアノ庫などホールの裏側をはじめ、普段は立ち入ることができない地階などを見ていただいた。また、ホールのピアノに直接触れる機会も設け、音楽専用ホールの豊かな音の響きを体感していただくなど、シビックセンターをより身近に感じていただく機会とすることができた。

地元音楽家支援・育成型事業

地元音楽家支援・育成型事業として、本年は2事業3公演を実施した。シビックロビーコンサートは、「木管楽器で奏でるちいさな音楽会」と「フルート&ヴァイオリン&ハープで奏でる優しい秋のメロディー」を行った。新型コロナが第5類に移行してから初の開催で、2公演ともシビック1階のロビーで、密集を避けるため会場のレイアウトを工夫し、入場者数を制限しながらの開催であったがいずれも多くの鑑賞者が訪れた。鑑賞された方は、演奏のみならず奏者の息づかいなどを感じながら音楽を楽しまれ、また出演者には演奏の場を提供することができた。

3月の「次世代育成プロジェクト」は、岡崎市内の高校出身であるトランペット奏者の村松夕芽、今村碧のデュオによるリサイタルを開催。コンサートはトランペットのために書かれたクラシック曲の数々を観客に紹介する形で行い、プログラムノートも奏者自らが手掛けた。新聞取材の場を設け、記事を通して出演者を地元で紹介する機会も創出した。出演した二人からは「一流の音楽家が演奏するホールで自分の演奏を聴いてもらえて光栄」といった感想があった。本事業により、地元の若手音楽家を広く市民の皆さんに認識いただけたと考えている。

コロネット市民音楽フェスティバル、地域ネットワーク事業、防災関連事業、その他提案事業

9月に実施したコロネット市民音楽フェスティバルは、本年は3団体が参加した。今年も各団体の要望に丁寧かつ細やかなフォローができるように、スケジュールや進捗状況をこまめに確認しながら実施した。毎回の課題となっている集客については、制作支援の一環でマスコミ訪問を行ったことにより券売に効果が見られたほか、参加者とマスコミを繋ぎ、今後の活動に活かしてもらえるように取り計らった。

地域ネットワーク事業は、11月には「シビックエキナカ♪コンサート」を実施した。シビックセンターに縁のある演奏家として、アンサンブル・アカデミーを受講し愛知県立芸術大学大学院で研鑽を積んでいる弦楽器奏者たちが、クラシック曲からディズニーのテーマソングなどを多彩に演奏した。

また、3月には次世代育成プロジェクトの村松夕芽、今村碧を起用し、地域活動支援センター六ツ美分館と連携して実施した。施設の利用者や地域の大人から子どもまでが楽しめるプログラムで、施設利用者同士の交流、音楽を楽しむきっかけづくりを目的としたミニコンサートを行った。

防災関連事業として9月に「コロネット防災コンサート」を実施した。岡崎市防災課職員による防災講座を行い、市民の防災意識を高めるとともに、減災のための心構えを伝えることができた。講座の後はトロンボーンのミニコンサートを鑑賞いただき、来場者にホールの響きを体感いただいた。

交流広場等を利用した地域のまちづくり支援に関する業務

交流広場事業・花植え業務

7月の「シビックセンター夏祭り」は、主催である地区の総代会及び地元有志による実行委員会と連携しながら、コロナが5類に移行してから初めての開催であったため、昨年同様に安全対策に配慮して実施した。シビックセンターは事務局業務を担い、企画のサポートのほか、祭りに関わる人や地元有志による実行委員との連絡調整役をつとめた。大勢の来場者があったが安全管理を徹底したことで、祭りは事故なく終了した。

11月の「シビックリズム音楽広場 1111 フェス！」は、大人も子どもも楽しめる多様な音楽文化に触れていただくというコンセプトで、交流広場でのステージパフォーマンスや楽器制作ワークショップを含む内容で実施した。ワークショップで作った楽器を手にした参加者が広場から館内をパレードして歩き、参加者・来場者共に楽しんでいただけた。また今回は、広場事業を「出会いの駅おかざき」の主催イベントと同日開催することで、岡崎市シビックコア地区の賑わい創出に寄与することができた。

12月の「シビック・クリスマス 2023」は、クリスマスを家族で楽しんでもらえるように、工作ワークショップや人形劇の上演、冬空を投影したプラネタリウムやロビーコンサートを開催。交流広場にはキッチンカーの出店もあり、同日に「Quartonal クリス

マス・コンサート」を開催するなど、食も音楽も一度に楽しめるイベントとして開催できた。

3月の「KIDS EXPO～キッズ万博」は、多くの子どもたちが音楽、アート、科学、スポーツなど様々な体験を楽しんだ。交流広場にはキッチンカーの出店や警察車両の展示をした。館内では、1階に楽器体験や缶バッジ製作のブースを、2階に出演者と一緒に参加者もダンス体験ができるステージや大がかりな科学実験を見せるコーナーを、3階にボッチャ体験、工作ワークショップの部屋を設けた。コンサートホールではKids meet Jazz!の公演を開催し、施設の全フロアが多くの親子連れでにぎわった。

花植え事業は年3回実施した。春は感染拡大防止を考慮し職員のみで行ったが、5類に移行後、秋からは羽根北地区の方にもご参加をいただき、プランターの花の植え替えを行いながら地域の方との交流を深めることができた。冬の花植えには子どもたちの姿も見られるようになり、活動を通して地域の方々が世代間交流をはかることができた。

ディスプレイの実施

9月から展示を開始した「家康と四季」は、昨年と同じ「家康公と岡崎」をテーマに光ヶ丘女子高等学校和紙工芸部に制作を依頼。和紙と絵を組み合わせた立体感のある作品は、1階東玄関の円柱に絵巻のように巻き付けて展示。昨年から展示継続中の「窓ガラスアート 開花」も一緒に12月まで鑑賞いただけた。作品完成のお披露目会を開き、招いたメディアを通して、大作に挑んだ高校生の成果とシビックセンターの取り組みを市内外へ伝えることができた。

3月に1階ロビーの天井から吊るして展示をしたモビールは、館内で使われたトイレットペーパーの芯を材料にした作品。使用後は廃棄されてしまうものを利用したことで、さりげなく来館者にSDGsを知っていただける機会を作った。同月に開催した交流広場事業「KIDS EXPO」では、楽器体験ブースの装飾としてイベント来場者にもSDGsを身近に感じてもらう機会となった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

施設名	利用日数	利用可能 日数	稼働率 (日数)	利用単位数	貸出可能 単位数	稼働率 (単位数)
コンサートホール	259	292	88.7%	630	875	72.0%
リハーサル室第1	96	321	29.9%	196	963	20.4%
リハーサル室第2	296	321	92.2%	538	963	55.9%
集会室	307	320	95.9%	645	962	67.0%

交流広場	104	345	30.1%	104	345	30.1%
------	-----	-----	-------	-----	-----	-------

(2) 利用状況に対する自己評価

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたこともあり、ホールの稼働率（日数、単位数共に）は昨年度を上回る結果となった。

地元企業の講演会利用や合唱グループの発表会など、コロナ禍では活動を自粛されていた利用者による利用が少しずつ戻ってきている印象である。

昨年度実施した過去の利用者への架電営業では、コロナ禍を機に活動を中止した団体もあったため、今年は新たな利用者を誘致するために地元金融機関や証券・保険会社等に対し営業活動を行った。イベントを開催する際にはシビックセンターのコンサートホールを候補として考えていただけよう依頼したところ、大多数の営業先から好意的な返答をいただくことができた。すぐに予約に結び付く活動ではないが、長期的な目線で新たな顧客の確保を図っていきたい。

リハーサル室第2は、既存顧客の定期利用に加え、新たな教室や団体の定期利用が入り、利用率は昨年92.3%と比べてほぼ横ばいの92.2%と高水準を維持することができた。また稼働率は55.9%と昨年（53.9%）を2ポイント上回った。昨年同様ほぼ毎日稼働している状態で、空いていた枠にうまく新たな教室や団体の利用が入ったことが要因として挙げられる。

集会室の利用率も95.9%（昨年実績91.6%）と高い水準まで上昇しており、リハーサル室第2同様、保守点検日を除いてほぼ毎日何らかの利用が入っている。

交流広場も新たな定期利用者がおり、稼働率、利用率共に50%強上昇した。このような定期利用者を今後も誘致していきたい。

令和7年1月からホール及び交流広場が大規模改修工事により貸出不可となる。1年8か月間という長い期間利用できなくなることで、利用者からは不便であるというお声を多数頂戴している。1月以降に予定しているイベントを12月までに前倒しで実施いただく提案をするとともに、リニューアルオープン後には再度ご利用いただけるよう積極的にお声掛けをしていきたい。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額（円）
収 入	委託料収入	精算を伴うもの伴わないもの合算	239,597,516
	利用料金収入		13,729,957
	事業収入	コンサートホール事業 交流広場事業	13,012,659
	その他収入	預かりチケット手数料 公衆電話、コピー代等	3,232,276

収入 計			269,572,408
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、事務費 手数料、修繕費、清掃等委託料 保険料等	226,560,125
	(うち修繕費)		9,866,403
	(うち光熱水費)		35,428,113
	事業費	直接事業に係る経費	32,123,706
	その他	本部経費、租税公課、 退職給与引当金	9,933,210
支出 計			268,617,041
差 引			955,367

(2) 収支状況に対する自己評価

令和5年5月に新型コロナウイルスが感染法上5類に移行し、利用料金収入は回復基調で前年比106%となったものの、依然として影響は残り予比94%と予算を下回った。一方、事業収入は、話題性ある公演を核としたラインナップがお客様から支持され予比102%を達成。支出については昨年に引き続き収入状況を鑑みて適切に執行した。精算事業についても以下のとおり、修繕費・水光熱費とも適切な管理を行った。

修繕費

修繕箇所発生時には、共同事業体内で優先度及び工事スケジュール、費用を基に協議を実施した上で岡崎市文化振興課に提案し、計画的に執行した。

水光熱費

エネルギーの使用量は、夜間利用のない日の省エネ対応（夜間施錠）等を行うなどの対策を実施し、年間を通して適切に管理を行った。今年度の貸館は利用率、稼働率とも向上し、エネルギーの使用量は前年度と比較すると電気103%、ガス111%、水道113%である。一方で使用料金（電気・ガス・水道計）は、政府による補助金もあり、前年比85%であった。引き続き、施設の安全で快適な環境維持と省エネルギーを両立した適正な運転に努める。

4 調査結果（アンケート等）

(1) 実施概要

■音楽公演 来場者アンケート

公演日	開演時間	公演名	鑑賞者	回収数	回収率
4月29日(土)	15:00	エキサイティングステージ 細川千尋ピアノ・トリオ JAZZ LIVE	296	188	64%
5月13日(土)	15:00	プレミアムコンサートシリーズ 東儀秀樹 with 川井郁子	372	244	66%
6月3日(土)	15:00	クローズアップおかざき アンサンブル天下統一2023	335	187	56%
9月9日(土)	15:00	ようこそコロネットシリーズ 三浦文彰が魅せる室内楽の世界 ～中井美穂をナビゲーターに迎えて～	378	206	54%
10月7日(土)	15:00	プレミアムコンサートシリーズ 錦織健 テノール・リサイタル	407	247	61%
11月5日(日)	15:00	プレミアムコンサートシリーズ 児玉麻里&児玉桃 ピアノ・デュオ・コンサート	206	127	62%
12月10日(日)	15:00	クローズアップおかざき アンサンブル天下統一 ゴルトベルク変奏曲	305	126	41%
12月16日(土)	15:00	エキサイティングステージ Quartonal クリスマス・コンサート	244	109	45%
1月8日(月)	15:00	こどものためのシリーズ 音楽の絵本エレガンス	404	48	12%
2月25日(日)	15:00	ようこそコロネットシリーズ 北村朋幹 ピアノ・リサイタル	325	139	43%
3月23日(土)	①11:30 ②14:30	こどものためのシリーズ Kids meet Jazz! スペシャルコンサート	558	41	7%

(2) アンケート結果概要

音楽公演 来場者アンケート

本年度の来場者アンケートは、上記11公演を対象に、公演来場者の特性、満足度、ニーズを把握して事業に反映させることを目的に実施した。

また、上記の公演以外においてもアンケートを実施した。収集した情報をもとに振り返りを行い、企画内容へのニーズの反映と来場者サービスの向上を目指した。

鑑賞者の年代構成

鑑賞者の年代は、60代が32.5%、70代以上が35.0%と全体の7割近くを占めた。50代が17.5%と続き、全体の85.0%が50代以上という結果となった。

た。

鑑賞者の居住地

鑑賞者の居住地は「岡崎市内」が最も高く69.5%、次いで「愛知県（その他）」が12.9%、「その他」が6.1%、「名古屋市」が4.3%と続くが、この傾向は昨年度と同様である。

友の会の入会有無・会員内容

友の会会員・非会員は、会員が52.4%、非会員が47.6%で、会員の割合が昨年度より8.3ポイントアップし、比率が逆転している。「入会している」と回答した方の内訳は「クラシック会員（有料）」が39.0%、ベーシック会員（無料）が51.6%で、半数以上がベーシック会員である。

会員内容と鑑賞者の特性

友の会の加入状況と年代の関連性をみると、学生チケットが適用されなくなる20代から、年代が上がるのに比例してシビコロ会員の割合が増えていき、50代以上は全て会員の割合が過半数を超える結果となった。

友の会入会有無と居住地では、会員の割合が高いのは「安城市」63.2%、「岡崎市内」55.2%、「愛知県（その他）」43.7%であるが、県外の居住地の方（その他）でも43.9%の方が会員になっていることから、会員の多くが市内や近隣からの来場者であるが県外居住者も会員として獲得できていることがわかる。

鑑賞理由と鑑賞者の特性

鑑賞の理由と鑑賞者の特性（年代、居住地、会員内容）の関連性をみると、30代以上の方が公演の鑑賞を決めた理由は「出演者がよかったから」が最も高く、「好きなジャンルだから」「プログラムがよかったから」が続いた。

年代と鑑賞理由の関連性は、10代20代は「文化芸術に触れたかったから」を選ぶ割合が多く、ジャンルやプログラムなどを踏まえたうえで鑑賞を決めている傾向が強い。30代40代は子育て世代ということもあり、鑑賞を決めた理由に「子どもと一緒に参加できたから」や「家族・知人・友人と楽しめたかったから（誘った）」を選ぶ方が多い。

居住地と鑑賞理由の関連性では、近距離からの来場者には「近かったから」を理由にする方もみられるが、どのエリアに居住している方も一番の理由は「出演者がよかったから」を挙げ、「好きなジャンルだから」「プログラムがよかったから」が続く結果となった。

また会員内容と鑑賞理由の関連性をみると、クラシック会員（有料）ではベーシック会員（無料）と比較して「プログラムがよかったから」「文化芸術に触れたかったから」の割合が高く、文化芸術に高い関心を持っていることが分かる。また、会員、非会員問わず「出演者がよかったから」の割合が最も高いことから、令和5年度は鑑賞者のニーズにマッチした公演をラインナップできていたと言える。

関心のあるジャンル

今後聴きたい／観たいジャンルは高い順に「クラシック」83.9%、「ジャズ」34.9%、「演劇・ミュージカル」24.0%と続き、昨年度同様の傾向である。年代別でみると、40代以下の年代は聴きたい／観たいジャンルに演劇・ミュージカルを挙げているが、50代以上は、聴きたい／観たいジャンルに「伝統芸能」を挙げる傾向がみられる。また「クラシック」の中では「ピアノ」が56.1%で最も高いが、「室内楽」48.8%、「弦楽器」41.8%と続き、「オーケストラ」も38.4%と比較的高いニーズがあることがわかる。年代別でみると、いずれの年代でも「ピアノ」の割合は高いが、「室内楽」は40代以上の年代で高いニーズがある。一方「オーケストラ」は40代以下で高いニーズがあるものの、50代60代では、弦楽器や室内楽に続いて4番目のニーズとなっている。

公演の満足度

企画の満足度（「とても満足」＋「満足」）は97.1%と高い評価を得ることが出来、昨年度より0.5pt アップした。企画内容に対する声では「クラシック会員ですがプログラムに満足しています」「岡崎で有名な方々の演奏が聴けるので、楽しみにしています」「いつも楽しい企画をありがとうございます。出産して約2年、子どもOKのイベントは欠かさず全て参加しています」など、企画への評価のコメントが多く得られた。また、「シビックセンターは小さい会場ではあるけれど、音が心にしみてくる感じが大好きです」「こじんまりとした木目調のコンサート会場は落ち着きがありどこからも演奏を観ることができてとても良かった」などホールの響きと施設に対する評価や、「スタッフさんもとても親切で気持ちよく利用できたところが良かったです」「途中咳のため退出しましたが、会場係員の方に親切に対応していただき、大変助かりました。お礼申し上げます」などスタッフに対するお褒めの言葉も多くいただいた。

総合して、お客様からの高い期待に応え、音楽専用ホールの特性を活かす企画を実施したことにより、新たな会員の獲得や市外からの誘客に成果があり、来場者からの高い満足度を得ることができたと考えられる。

利用者アンケート

施設の貸出し業務に関する利用者の満足度やニーズを把握することを目的に、今年度もコンサートホール、リハーサル室、集会室の利用者を対象に1年間アンケートを実施し、237件回収した。アンケートに記載されたコメントは回収時に確認し、改善に取り組んだ。

施設利用者の年代は40代～50代が最も多く、利用者全体の49.3%とおおよそ半分を占めた。

住まいは例年同様岡崎市内が多く、6割以上を占めている。来館手段も昨年と同じくマイカーが8割超える結果となった。電車・バスの公共交通機関でのご来館は全体の2.5%であり、イベント等の主催者はほぼマイカー等の自動車で来館されている。一方、シビックセンターを選んだ理由では、「駅が近い」と回答いただいた方が30%お

り、参加者を集めるためには公共交通機関の駅が徒歩圏内にあることも大切な要素となっていることがわかる。

予約方法や貸出方法については「現状で良い」「概ね良い」と答えた方が全体の 89.5%でほぼご満足いただいているが、「分かりにくい」「とても分かりにくい」と答えた方も数パーセントいた。フリーアンサー欄は、利用料金の支払期日を予約からもう少し余裕を持たせて欲しいといった内容や、調整会議の進め方について改定してほしいといった意見があった。利用料金は、コンサートホールでは予約から 1 か月以内にお支払いをお願いしているが、遠方の利用者に対しては振込対応をするなど柔軟に対応し、ご理解いただけるよう努めていく。また調整会議の実施方法は直営時代からの抽選方法を踏襲しており、ほかの利用者からは特にご意見をいただいていない。時代に合わせ長年続けてきたルールやフローを見直すことも厭わないが、利用者全員にとって公平公正な施設であり続けることができるよう、今後も意識して運営していく。

施設・設備に関しては、「施設の使いやすさ」「清潔さ」の項目において、ホールの響きやピアノの良さを評価いただく回答が大部分を占めたものの、特にホワイエの暑さを指摘される声が多かった。空調設備の不具合については主催者に丁寧にご説明し了承いただいた上で貸出しをしているが、来場されたお客様の体調を気遣う声が散見され、快適な室温を維持できていないことを主催者も心苦しく感じていることがわかった。また Wi-Fi 環境の整備を希望される声も何件かいただいた。

コンサートホールは大規模改修を迎えるが、利用者はハード面のリニューアルを大きく期待されていることがうかがえた。

なお、各設問事項のフリーコメント欄には、スタッフの対応について好意的な意見や感謝の声を多数いただいております、指定管理者のサービスについては一定の評価をいただいている。

利用者懇談会

施設利用者のニーズを探り、施設の利用促進とサービス向上を図る方策を検討するため、貸館利用者懇談会を実施した。コンサートホール利用者の中から任意に抽出した 6 組を対象に、対面でのインタビュー形式で実施した。

参加者からは、貸出のルールがきちんと定められており公平であるという意見や、受付スタッフや舞台スタッフの対応の良さなど、ソフト面について一定の評価をいただくことができた。一方、ホワイエの暑さや Wi-Fi の設置希望など、ハード面での不便さに対する声が多く挙げられた。特にホワイエの暑さに関しては、熱中症など命の危険を感じている利用者もあり、大規模改修での空調修繕が大いに期待されていることを実感した。

懇談会の実施にあたっては利用歴の長い方、浅い方等様々な利用者へ参加を打診した。都合がつかず参加できなかった利用者もいたが、運営全般についての意見を伺いたいとお伝えしたところ、打診したすべての利用者から前向きに参加を検討したいとの意思表示をいただいた。これは、日頃からホールや諸室の貸し出しに際して、利用者とコミュニケーションを意識的にとり、信頼関係を構築してきた結果であると認識している。コロナ禍を経て久しぶりに対面で懇談会を開催することができ、参加者からは忌憚のない

貴重な意見を多数いただくことができた。

利用者の皆様からいただく意見は時に厳しい内容もあるが、シビックセンターを大切に思っている意見であると真摯に受け止め、利用者の信頼に応えるべく前向きに取り組んでいく。

5 その他自己評価

(1) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用者アンケートを通じたニーズ把握のほか、受付窓口においても施設利用の問い合わせ時のお客様とのコミュニケーションを大切にしたい。いただいた声は優先順位をつけ改善に取り組んだ。主な改善内容として、感染症の影響で制限していた舞台上の利用人数制限を廃止し、基本的な感染症対策を実施すれば自由に利用いただけるようにした。また、同じく感染症の影響で中止していた延長時間枠の予約を40分であれば受けることとした。依然強い感染力を持つウイルスであるため、With コロナの利用に合わせて柔軟に提案、対応していく。

また、令和4年12月より導入したチケット購入と有料会員の新規入会及び更新時のWEBカード決済について、今年度販売したチケットのおよそ35.9%がカード決済での購入であった。また有料会員の更新では6.2%、新規入会者は49.6%と約半分の方がカード決済であり、大きなニーズがあったことを改めて実感した。次期は窓口での現金以外の決済ツールを導入し利用者の利便性をさらに高めていく。

(2) 苦情対応等に対する自己評価

本年度も継続して日々の「安心安全な運営」と、ご指摘発生時には「迅速かつ誠実な対応」を心がけた。ご指摘内容は速やかに岡崎市に報告すると共に、必要に応じて協議を行い改善に繋げた。日々のお客様対応をマネージャーが日報も活用しながら把握し、ご指摘対応のみならず、意見や要望にも可能な限り対応した。

(3) その他

人材育成

本年度も指定管理の安定運営とサービス向上を目指し職員の人材育成に取り組んだ。JVの合同研修のほか、共同事業体各社においても実務及びサービス・マナー向上に向けて計画的な人材育成を実施した。

JV共通のものとしては、BCP（震災編・新型インフルエンザ編・洪水集中豪雨編）を策定したことに伴い、10月にポイントを全員で確認する機会を設けた。あわせて、洪水・集中豪雨の際の対応について理解を深めるために、有事の際の動きを具体的に想定したディスカッションを行った。

各社独自の研修においては集合研修のみならず個別の施設視察の他、オンラインを活用した研修やeラーニングも積極的に取り入れて実施した。

今後も各業務の専門性を高める研修を継続し各部門の安定運営を図り、シビックセンター全体のスキルアップを目指したい。

消防訓練、防災関連事業の実施

消防計画のとおり、本年も年2回の消防訓練を実施した。10月には合同庁舎とシビックセンターの合同で実施。3月はテナントも含めたシビックセンター全体での訓練を行い、消火器・消火栓の使用方法に関する訓練を行った。

9月には防災関連事業として「コロネット防災コンサート」を実施した。95名の参加者に、市防災課職員による防災・減災講座を通して日頃の防災意識を高めていただくとともに、トロンボーン奏者によるコンサートもお楽しみいただいた。参加者アンケートからは「一人ひとりの日頃の備えが減災につながる」ことが伝わったことがうかがえた。

感染症に対する対応

5月より新型コロナウイルスは感染法上は5類に移行したが、施設や設備の念入りな清掃はもちろんのこと、コンサート開催時は入場者数に応じた運営方法や、換気等にも配慮した。また職員は不特定多数の来場者と接することからマスクの着用を継続する等来館者に安心して利用していただけるよう対応した。

以上